Y07a　２００９年全国同時ＳＥＴＩ観測実験（試験観測）電波部門の報告

○藤下光身（東海大）、鳴沢真也（西はりま天文台）、井上毅（明石天文科学館）、森本雅樹（西はりま天文台）、尾久土正己、佐藤奈穂子（和歌山大）、今井一雅（高知高専）、藤澤健太（山口大）

１９６０年のドレイクによる最初のＳＥＴＩ以来、早くも５０年近くが経とうとしている。この間に、多くの電波観測に加えて光での観測も行われたが、現在のところ確定的な結論を得るに至っていない。その原因の一つは、多くの現象が一過性で再観測が難しい点にあろう。そこでこの状況を打破する一方法として、様々な観測周波数・様々な方法・様々な場所で同時に観測する「多周波・多方式・多地点同時観測」をＷＧ（鳴沢・井上・森本・藤下）が企画し、全国に呼びかけて賛同した機関に参加してもらう方式で、まず試験観測を２００９年3月２８日２１時から２９日2時にかけて、ターゲットを 55 Cnc に絞って行った。ここではその中の電波部門（３機関が参加）について報告する。なお、２００９年中に本観測を企画している。

和歌山大・みさと天文台では口径８ｍのパラボラアンテナで中心周波数１．４２ＧＨｚの分光観測を行った。５シグマを越す信号は検出できなかった。

高知高専では９素子直交ログペリオディックアンテナで中心周波数３２．５ MH ｚの観測を行った。地球外知的生命体からの信号と思われるものは観測できなかった。

山口大学では口径３２ｍのパラボラアンテナで中心周波数６．６６８ GH ｚの分光観測を行った。１６ Jy を越える異常なデータは見いだせなかった。